

NPO法人ドギーバッグ普及委員会による取組

持ち帰りたいのに持ち帰れない人の気持ちを大切にしながら、食事を作ってくれる人や農家さんなどの作り手と、食べる側との気持ちのよい関係づくりを目指して、「自主的に」、「気軽に」、「ファッションブルに」そして「安全に」ドギーバッグができるよう普及活動を推進。

ドギーバッグは、食品ロスに関する様々な課題を解決する可能性がある。

具体的には、

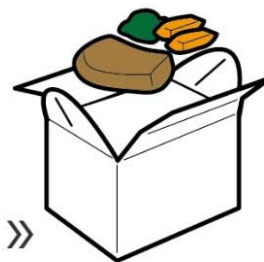
- ①食品ロスが焼却・埋立される際の環境問題の解決
- ②資源の浪費によるムダの削減
- ③食に関わる人たちとの関係性
- ④食べ過ぎによる健康問題の解決

ドギーバッグでの持ち帰り例

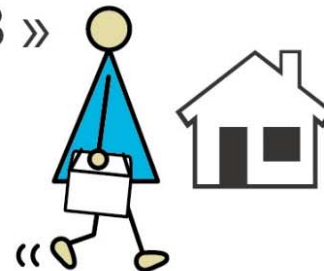
1 »



2 »



3 »



会員には、すぐ取り組めるように、ドギーバッグ活動スターターキットを配布。

〈キットの主な内容〉

- ドギーバッグ
- トートバッグ
- 自己責任カード



ドギーバッグは
折りたたみ式



食中毒は、細菌の増殖を防ぐことが基本。
したがって持ち帰りの基本原則は、細菌を「つけない」、「増やさない」、「殺菌」。

- ドギーバッグは、繰り返し使えるプラスチック容器（紙製ではない）
- バッグに入れて携帯できる
- 容器は丸洗いできる

持ち帰りは自己責任で！